

弘前大学
教育学部紀要

第 104 号

平成22年10月

Bulletin of the Faculty of Education

Hirosaki University

No. 104

October 2010

弘前大学教育学部

Hirosaki, Japan

目 次

近世期における「御所ことば」の記載について …………… —東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—	郡 千寿子 (1)
正法眼蔵『有時』 ……………	矢 島 忠 夫 (9)
青森県の公共事業と医療・介護の経済波及効果と雇用創出効果： 産業連関表による比較分析 ……………	神 馬 志保子 (21) 秋 葉 まり子
温室効果ガスの検証実験と中学校における教材化に向けた基礎研究 ……………	沼 田 天 (45) 矢 野 慎 長 南 幸 安
スイートソルガムを用いたバイオエタノールの合成 ……………	山 田 緑 (53) 矢 野 慎 杉 本 将 英 小野寺 美 佳 肥田野 豊 長 南 幸 安
高等学校における過冷却の教材化の研究 ……………	矢 野 慎 (57) 長 南 幸 安
青森県林業と中学校技術科単元「材料と加工の技術」教材の一考察 …………… —地域産業・環境・活用の視点—	福 眞 陸 城 (65) 荒 井 一 成 大 谷 良 光
幼児期におけるふりの心的表象と行為との関連の理解について ……………	伴 碧 (77) 菅 野 幸 宏
小学5,6年生の身体熟知語彙の出現頻度 …………… —早川らの研究との比較—	小 玉 正 志 (85) 曲 沼 亮 子 小 玉 有 子 新 垣 知 佳
紫黒米の調理に関する研究 ……………	加 藤 陽 治 (95) 中 山 幸 子 白 根 由 雅 伊 藤 聖 子
ツルアラメの調理加工に関する研究 ……………	伊 藤 聖 子 (105) 成 田 真由美 加 藤 陽 治
なぜ、社会教育は「社会教育」と命名されたのか(その4) …………… —佐藤善治郎『最近社会教育法』の歴史的立場づけをめぐって—	佐 藤 三 三 (111)
自伝的記憶の語りに関する予備的研究 ……………	田 上 恭 子 (121)

弘前大学教育学部紀要刊行及び投稿規定

弘前大学教育学部紀要編集委員会

1. 本紀要は本学部で行われた研究の成果を公表することを目的に刊行する。
2. 発行は原則として各年度の10月及び3月の年2回とし、各号はA4版で約150ページとする。
3. 原稿の締切は概ね7月下旬及び1月上旬とする。
4. 論文の著者には本学部の教員が含まれていなければならない。
5. 論文の本文は横書きの和文又は英文を原則とする。
6. 各論文の長さは図表等を含めて刷り上がり10ページ以内とする。なお、印字の大きさは9ポイント活字相当とし、1印刷ページは和文で1行24字、45行の2段組で2,160字とする。英文等の場合は1段組とする。
7. 原稿の作成に際しては所定の執筆要領（別掲）に従うものとする。
8. 掲載順序など、編集に関することは紀要編集委員会が決定する。なお、論文の内容等について疑義が生じた場合、本委員会は著者と協議し、必要があれば訂正等を求める。
9. 原稿の受理後における内容の変更等は認めない。
10. 校正は原則として著者が行い、2校までとする。
11. 論文が11ページ以上に及ぶ場合や、カラー印刷や図版の作製などに特別の経費を要する場合には、その経費は原則として著者負担とする。
12. 刊行経費が予算を超過した場合、超過分を著者の按分負担とすることがある。
13. 別刷を希望する場合は、投稿の際に必要な部数を申し出る。経費は著者負担とする。
14. 本紀要に掲載された論文の著作権は当該論文の著者に帰属する。ただし、本委員会は掲載された論文を電子化し、「弘前大学学術情報リポジトリ」に掲載して公開することができるものとする。

この規定は、平成20年4月から施行する。

弘前大学教育学部紀要執筆要領

1. 原稿は、手書きの場合字数が明確になるよう原稿用紙に記載する。また、タイプライターやワードプロセッサ等を用いる場合にはA4版の用紙に印字する。なお、パソコン等による原稿には、使用したハードウェア及びソフトウェアを明記したフロッピー・CD-R等を添付することが望ましい。
2. 原稿には論文題名、著者名及び所属が和英両語で記載されていなければならない。なお、英語に変えて、他の汎用性の高い言語を用いてもよい。
3. 本文の前には同一の言語による要旨（Abstract）及び、キーワードを置く。要旨は和文の場合には400字以内、英文等の場合には120語以内とする。なお、更に別の言語による要旨をおいてもよい。キーワードは数語以内とする。
4. 文献の引用は原則として本文中の該当個所の右肩に片括弧付きの番号で表示し、出典は本文末尾に一括して記載する。その際、雑誌の場合は著者名、論文等の題名、掲載誌名、巻・号、ページ、発行年を、また単行本の場合は著者名、書名、出版社名、ページ、発行年を記載することを原則とする。
5. 印刷に当たって指定したい事項（字体、下線、図表の挿入個所など）は原稿内に朱書するなどして明示する。
6. 図表（写真、楽譜等を含む）はなるべく少数にとどめ、本文原稿中に挿入することは避け、原則としてひとつずつA4版程度の白色台紙に貼り添付する。なお、図表の表題、指定事項等は台紙の端に記載する。また、図表は直接製版できるような明確なものとし、図中に文字などを写植する必要がある場合には明確に指示する。
7. 原稿の提出に際しては規定の「投稿申込書」を添付し、編集委員に確認を受ける。

編集委員会

A. S. Rausch (委員長)

中野博之

田中完

齋藤和男

弘前大学
教育学部紀要
第104号
(2010年10月)

平成22年10月16日印刷
平成22年10月20日発行
編集兼発行者
弘前大学教育学部
弘前市文京町1番地
電話 (0172) 36-2111(代)
印刷所 小野印刷
弘前市富田町52
電話 (0172) 32-7471(代)

CONTENTS

On a record of “The Language of Court Ladies” at the Edo era — A report from “OURAIMONO classification collection” of General Library, The University of Tokyo possession —	Chizuko KOHRI (1)
Shōbō-Genzō “YŪJI”	Tadao YAJIMA (9)
The Economic Far-reaching Effect and the Employment Creation Effect of Public Works sector and Medical Nursing Sector of Aomori: Comparative Analysis by the Industrial Linkage Chart	Shihoko JINMA (21) Mariko AKIBA
Teaching Materials Using Experiments with Greenhouse Gases	Satoshi NUMATA (45) Makoto YANO Yukiyasu CHOUNAN
Synthesis of Biomass Ethanol from Sweet Sorghum	Midori YAMADA (53) Makoto YANO Masahide SUGIMOTO Mika ONODERA Yutaka HIDANO Yukiyasu CHOUNAN
Treatment of “Supercool” in Chemistry of High School Education	Makoto YANO (57) Yukiyasu CHOUNAN
A Study of Based Technology Education upon the Situation of Forestry in Aomori ~ A Viewpoint of Local Industry, Environmental Education, Application ~	Mutsuki FUKUMA (65) Kazushige ARAI Yoshimitsu OTANI
Research on Young Children’s Understanding of Relation Between Pretense Representation and Action	Midori BAN (77) Yukihiko KANNO
The frequency of the body-related words and phrases in 5th and 6th elementary students ~ Compared to the results of Hayakawa's study ~	Masashi Kodama (85) Ryoko Maganuma Ariko Kodama Chika ARAGAKI
Study on a Cooking of Purple-black Rice	Yoji KATO (95) Yukiko NAKAYAMA Yuka SHIRANE Seiko ITO
Study on a Cooking Process of Tsuruarame (<i>Ecklonia stolonifera</i> Okamura)	Seiko ITO (105) Mayumi NARITA Yoji KATO
Why is it called “Social Education” — On The Historical Position of Zenjiro Sato's “Social Education” —	Sanzo SATO (111)
A preliminary study on narratives of life story and autobiographical memory in adolescence	Kyoko TAGAMI (121)